環境センターの火災予防体制

板倉　篤　議員

環境センターの発火事故を防げ

問　環境センターに設置された防災設備の整備状況は。

答　センター内各所に赤外線センサーや火災報知器、自動放水銃やスプリンクラーが設置されているほか、年2回の防災訓練を実施している。

問　環境センターにおける発火事案の発生は。

答　リチウムイオン電池等を起因とする発火事象が令和5年度1件、6年度5件、今年度は8月末ですでに4件発生しているが、いずれも適切な初期消火によって火災には至っていない。

地下水の利用状況と今後の活用

問　水道水における地下水の利用状況は。

答　大久保浄水場から受水している県水が75％、市内10ヵ所の井戸からくみ上げた地下水を25％の割合でブレンドして配水している。

問　今後の取水施設整備の方向性は。

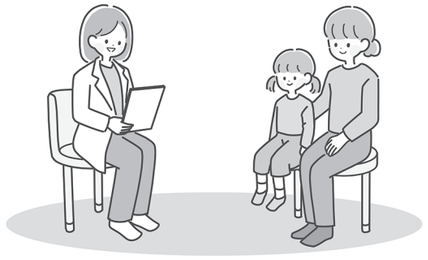
答　地下水の最大取水量は本市の配水量の半分ほどをまかなえる量がある。現在は新たな井戸の掘削や規模の変更が規制され、一度井戸を減らすと再度増やすことは難しいことから今の井戸の数や取水量を維持していく考えである。

5歳児健診の実施を

山田　敏夫　議員

問　5歳児健診を実施することは、子どもの発達を早期に把握し、その後の成長をサポートする上で非常に重要であると考える。5歳児健診の実施について市の見解は。

答　現在、市では、5歳児健診について、他自治体の実施内容や課題を収集し、関係機関とのスムーズな連携方法について検討している。今後、市医師会や関係機関との調整を進めていく予定である。



ケアラー支援に関する取り組み

問　特にヤングケアラーなどは、誰とも悩みを共有できずに、社会から孤立しがちである。

ケアラーが抱える悩みを一家庭や個人の問題ではなく、社会全体で支えていく必要があると考える。市の取り組み状況は。

答　支援については、ケアラー同士の交流の場の提供や情報の共有を進めるなど、孤立を防ぎ、支え合いながら社会とつながることのできる環境を提供していきたい。

超高齢社会を迎えて

鈴木　美恵　議員

問　認知症の早期発見の取り組みは。

答　自分でもできる、また家族に行ってもらう認知症チェックリストの周知、活用を勧めている。

令和7年度の取り組みとして、現役世代に認知症を知ってもらい、高齢者の認知症に早期に気が付くきっかけとなるよう、認知症に関することや認知症チェックリストを記載したチラシを、小・中学校の保護者向けに配布する予定である。

問　介護認定業務の労働力不足解消となるＩＴツールの効果は。

答　令和6年1月からタブレット端末を用いた認定調査システムを導入した。

導入後は調査件数が月平均で39・5件増加し、申請から認定までの期間についても大幅に短縮することができた。

聴覚障がい者に寄り添う

問　ろう者のためのオリンピックである東京2025デフリンピックのさらなる周知啓発を。

答　障がい福祉課の窓口や大井総合福祉センター内にポスターを掲示している。デフリンピック開催直前には本庁舎の入り口付近でパネル展示や、市報11月号にはデフリンピックの記事を掲載する予定である。

市にもＰＲカー到着

対話型AIで窓口業務改善

床井　紀範　議員

問　対話型ＡＩの導入への考えは。

答　職員個人の負担軽減だけでなく、窓口業務全体の効率化と質の向上に貢献すると考える。将来的には、市民サービスにも展開できる可能性がある。

先進的な技術の導入を積極的に検討し、様々な方策を調査・研究する。

交通安全対策の推進

問　上福岡駅西口方面から埼玉りそな銀行前を通る市道Ｈ－207号線と県道56号の交差点付近の歩行者等の対策を。

答　土地利用の変換が行われることが確認された場合、地権者の意向を尊重し、隅切り用地の確保や待避所の必要性を丁寧に説明し、理解と協力を求めていく。

問　清見1丁目からイオンタウンふじみ野を経由している市道幹線3号線と市民交流プラザに面した市道Ａ－142号線が接続する丁字路には横断歩道がある。交通量が多く危険なため、押し信号機の設置の要望を。

答　令和3年度に交通量調査を実施した結果等を踏まえ、東入間警察署に要望している。

手押し信号の設置を

DXと学校図書室の役割

塚越　洋一　議員

問　デジタル化が進む中で学校図書室の重要性が高まっている。教育委員会としての見解は。

答　情報を収集・分析・発表する活動を通じて情報リテラシーを育成する場として、ますます重要性を増してくる。

問　学校司書を専任の正規職員として学校ごとに配置し、市としての特徴ある教育水準の向上を目指すべきでは。

答　機能を最大限に発揮できるよう、配置の充実と教職員との連携強化を図っていく。

ごみ収集従事者の確保

問　市内のごみ収集業務は市民の協力の下、分別でも県内でトップクラスの水準を維持している。

作業員のアスリートのような敏速できめ細かな配慮が徹底されている。

しかし、人手の確保が難しくなる未来に向けて、何を検討すべきか。

答　若い世代の就職希望が少なく、収集運搬従事者103名中、半数を超える58名が50歳以上である。

契約内容の見直しや委託業者が業務を遂行しやすい環境が維持できるよう取り組んでいく。

学校図書室で

ビオトープの再生を

小林　憲人　議員

問　新河岸川放水路脇の親水公園は、県が設置した公園だが、雑草が繁茂し荒れ果てた状況である。改善を。

答　草刈りの時期や回数について県と協議していく。

一つでも多くの笑顔を

問　運動公園のフリースペースにおいて、団体が数時間占有し、使おうと思って訪れた子どもたちが、肩を落として帰っていく姿を何度も目にしている。交代で遊べる仕組みを。

答　番号をとって交代制、時間制にするなど検討していく。

親水公園の入り口

長寿に向けた取り組みを

問　特定健診の受診率は年々下がるか横ばいである。受診した際のアプリのポイント還元率を上げてみては。

答　今年度、アプリを大幅リニューアルしたばかりで、必要性を考えたい。

侵入盗対策の強化を

問　防犯フィルムを全世帯に配布しては。

答　防犯カメラや防犯グッズ、防犯講話などの支援を通じて個人の防犯意識を醸成し、地域と一体となって取り組むことで犯罪のないまちづくりにつなげたい。検討していく。